

# Newsletter No. 19

## Maxillofacial Prosthetics

発行人 石上友彦

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

### 保険収載への挑戦！



医療委員会委員 隅田 由香

2014 年度は診療報酬改定年度のため、日本顎顔面補綴学会医療委員会では 2013 年初旬より「イミディエートサージカルオブチュレータ」に関する提案書提出に向けて活動をして参りました。既に結果は 2014 年 3 月に発表され、検討が行われるリストには残ったもの、評価すべき医学的な有用性が十分に示されていないという最終評価にて保険収載は持ち越しとなりました。

ニュースレターの紙面をお借りいたしましてこの医療技術評価提案書提出を振り返り、ご報告させていただきますとともに、今後顎顔面補綴学会から提案書を提出していく上で、先生方のご意見を頂戴できる機会となりましたら幸いです。

2013 年 3 月 21 日、日本歯科医師会館にて「次期診療報酬改定における医療技術評価提案書に係る説明会」に出席致しました。日本歯科医学会の趣旨そして厚労省の見解などを鑑みますと提案書の提出は学会などの学術団体が、科学的裏付けを持った現場の声をきちんと挙げるための責務であり、学会からの提案書の提出が強く望まれていることを感じた次第です。他学会ですと社会保険委員会などが業務を専任していることが多いですが、日本顎顔面補綴学会では医療委員会が担当しているため「イミディエートサージカルオブチュレータ」に関する未収載技術の提案書を「概要版」、「技術の概要をまとめた資料」および「詳細版」を 2013 年 5 月 10 日に提出いたしました。

以下が作成、提出いたしました提案書の一部ですのでご覧いただければ幸いです。

\*\*\*\*\*

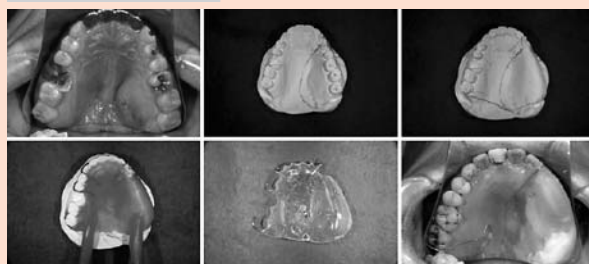
**規提案技術：**「顎欠損状態を想定して、切除前に製作する顎補綴装置」

**概要：**現在顎欠損患者には欠損病名に対して顎補印象、顎補装着にて顎補綴装置の装着が行われている。しかし、手術前の顎状態すなわち顎欠損になっていない状態（顎欠損病名なし）では顎補印象、

顎補装着などの顎補綴の作製が認められていない。そこで、本提案では、腫瘍やのう胞摘出などにより将来的に顎欠損が予測される症例に対して、欠損前に印象採得し、欠損を模型上で設定し、顎補綴装置を製作できる技術を収載することを提案する。

この手術前に製作する顎補綴装置の適用により、顎切除手術後速やかに、発音、嚥下機能の回復を行うことが可能。そして早期に経口摂取が可能になる。また、早期から保護することで感染を防ぎ治癒を促進できることにより、入院期間の短縮が期待できる技術である。

#### 技術紹介参考資料：



\*\*\*\*\*

お読み取りいただけますとおり、本学会の先生方であれば当然のように日常臨床で行っている「イミディエートサージカルオブチュレータ」に関する提案です。外科手術を行う前に作製する装置にて、印象時に顎欠損は無く、顎欠損病名が付かないため顎補印象や、顎補装着の点数は付いておりません。オペ前に迅速な手順にて作製および装着を行わなくてはならない割には点数に結びついていないのが現状であるところに着目し、提案書を作成させていただきました。「イミディエートサージカルオブチュレータ」の利点をご承知ととおりますが、保険収載を目指すためには確固たるエビデンスを示す必要があります。今後は「イミディエートサージカルオブチュレータ」の効果を明確に示すことのできる論文作成についても検討して参りたいと考えております。

今後、一般社団法人学会として、国民への貢献としてエビデンスの揭示となる論文、ガイドライン作成などが必須と改めて感じております。医療技術評価提案書の提出というひとつをとりましても、学会の先生方、特に学術委員会およびガイドライン委員会の先生方のご支援ご鞭撻無しには、成し遂げるることのできない事業であり、ますます

の学会内の連携、および他学会との連携を強める必要を感じております。

どうぞ、今後ともよろしくご指導賜ればと存じます。

#### 2013 年度優秀論文賞受賞者の声

2013 年度の優秀論文賞は、お二人の先生が受賞されました。



服部麻里子  
東京医科歯科大学歯学部  
附属病院  
上顎欠損患者における単音節を用いた nasalance の測定  
顎顔面補綴 36(1): 34-38

2013 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞を戴きまして誠にありがとうございます。ご指導いただきました査読の先生方、編集委員の先生方にお礼を申し上げます。私は 2001 年に東京医科歯科大学を卒業してすぐ顎顔面補綴学分野に所属し、学会の先生方の暖かいご指導の下で研究を行って参りました。学位論文を本雑誌に掲載していただいた際に 17 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞を戴きましたが、その後も谷口教授をはじめ、大学や学会の諸先生方の多大なるご支援、ご指導の元で顎補綴に関する研究を継続してまいりまして、思いがけず今回が二度目の受賞となりました。

本論文は上顎欠損患者の発話に際して鼻音化を表す値である Nasalance を計測し、顎義歯の装着により Nasalance の低下が起こることを示した論文であります。文章に比べて簡単に検査できる単音節を被験音として用いたことと、Nasometer の金属板を欠損患者の頬部の陥凹にあわせて調整したところに特徴があります。

上顎顎義歯装着により鼻音化が軽減され正常者に近い発話が得られることは臨床では日常的に体験できることです。しかしそのような当たり前と思われる事項に関して、その有効性の程度を数値化し科学的に説明するためには本研究のような基礎的な研究結果を蓄積していく必要があると考えます。本研究の結果が例えば顎顔面補綴を身近に経

験することのない関係者の方々へ顎義歯装着の有効性を説明する際の根拠の一つとなれば幸いです。

最後になりましたが学会の諸先生方にお礼を申し上げますと共に、今後の学会の発展をお祈りいたします。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



坂本佳名子  
九州大学大学院  
顎義歯装着患者に対する専門  
的栄養指導が質的栄養改善に  
与える影響  
顎顔面補綴 36(1): 21-27

この度は、2013 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞をいただきましてありがとうございます。まずは、丁寧に査読いただいた編集委員会の先生方に深謝いたします。本論文は私の大学院における研究の一部で、振り返ると大学院生時代は壁にぶつかってばかりでした。終始ご指導いただいた古谷野潔教授ならびに医局の諸先生方、また本研究テーマを示唆・指導いただいた松山美和教授のおかげで、ここまでたどり着くことができました。本当にありがとうございました。本学会に入会し初めての投稿論文で、このような名誉な賞を頂く事ができてとても嬉しく、また身の引き締まる思いです。

補綴装置装着後の治療評価には、咀嚼機能などの局所的評価や口腔関連 QOL を用いた報告は多数みられますが、全身の指標を用いた治療評価に関する研究報告はほとんどありません。口腔は消化器官の一部であり、補綴装置装着後、つまり口腔機能改善を行った際には全身の治療評価も必要と考えられます。また、顎義歯装着患者についても補綴治療後の栄養摂取調査が行われた報告がないことに気付き興味を持ち、本研究を始めるきっかけとなりました。本研究が今後、臨床の場において患者さんの QOL 向上に少しでも役に立つ事ができれば、これ以上の喜びはありません。

末筆になりましたが、貴学会の今後の益々のご発展、また諸先生方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 関連学会報告

### 第15回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会



第 15 回日本顎顔面技工研究会学術大会が、平成 25 年 11 月 30 日（土）に、畠中利英先生（奈良県立医大附属病院・口腔外科技工室）を大会長に、「情報と技術の融合」をテーマとして奈良県文化会館で開催された。参加者は 145 名であった。

特別講演Ⅰは「進行口腔癌に対する最近の治療の進歩」というテーマで、の桐田忠明教授（奈良県立医科大学口腔外科）が、最近の腫瘍に対する化学療法、放射線治療法や腫瘍切除後の顎骨再建、インプラントによる咬合再建について語られた。

特別講演Ⅱは「三次元画像に基づく情報生成とその臨床応用」というテーマで、中尾恵准教授（京都大学大学院情報学研究科医用工学分野）が、医療の中での三次元画像データの基礎的な分野から、臨床応用するための可視化について語られた。

宿題講演は長谷部俊一先生（日本歯科大学附属病院・歯科技工室）が「舌接触補助床の過去・現在・そして未来へ」と題して、過去十数年の経験から舌接触補助床の工夫などを語られた。

今回は一般演題 12 演題中 5 演題が 3D プリンタに関するものであり、CAD/CAM で 3D プリンタを動かし、更に造形された模型を加工して利用する内容がみられた。

筆者は 90 年代初頭から 3D プリンタを口腔外科技工に応用しており、この研究会に参加して、ようやく 3D プリンタの時代がやってきたと感じた。

（広報委員 山口能正）

# Newsletter No. 19

## Maxillofacial Prosthetics

### 関連学会のご案内

●第15回日本言語聴覚士協会総会・日本言語聴覚学会

日 程：6 月 28 日（土），29 日（日）

会 長：半田理恵子（東京都言語聴覚士会会長）

会 場：大宮ソニックシティ（JR大宮駅徒歩3分）

問合せ：〒251-0026

神奈川県藤沢市鵠沼東 3-1-620

第 15 回日本言語聴覚学会事務局

TEL：0466-21-7914 FAX：0466-21-7996

●第32回日本顎咬合学会

日 程：6 月 14 日（土），15 日（日）

会 長：渡辺隆史（小滝歯科医院）

会 場：京王プラザホテル（東京都）

問合せ：〒102-0093

東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門パレス 201

TEL：03-3261-0474（10：00～17：00）

E-Mail：gakujutsu@ago.ac

●第27回日本顎関節学会総会・学術大会

日 程：7 月 19 日（土）～20 日（日）

会 長：古谷野 潔（九州大学）

会 場：九州大学医学部百年講堂（福岡市）

問合せ：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院インプラント・

義歯補綴学分野

TEL：092-642-6441 FAX：092-642-6380

●第24回日本口腔内科学会・第27回日本口腔診断学会合同学術大会

日 程：9 月 18 日（木）～20 日（土）

会 長：中村誠司（九州大学）

会 場：九州大学医学部百年講堂（福岡市）

問合せ：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面

病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野

準備委員長 杉浦 剛

TEL：092-642-6447 FAX：092-642-6386

●第20回日本・嚥下リハビリテーション学会学術大会

日 程：2014 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）

会 長：石川 誠（医療法人社団輝生会理事長）

会 場：京王プラザホテル，新宿 NS ビル，ベル

サール新宿セントラルパーク（東京都）

問合せ：〒461-0004

名古屋市東区葵 3-12-7

株式会社オフィステイクワン（運営事務局）

TEL：052-930-6145 FAX：052-930-6146

●第28回日本口腔リハビリテーション学会学術大会

日 程：平成 26 年 11 月 23 日（日），24 日（祝）

会 長：田中昌博（大阪歯科大学）

会 場：大阪市中央公会堂大集会室（大阪市）

問合せ：〒540-0008

大阪市中央区大手前 1-5-17

大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座

TEL：06-6910-1518 FAX：06-6910-1046

E-Mail：28jaor@cc.osaka-dent.ac.jp

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 松山美和

委 員 関谷秀樹，堀 一浩，中島純子

山口能正

事務局 max-service@onebridge.co.jp